

地域包括ケア推進課 佐藤 功

せんだん通信をご覧の皆さま、こんにちは。

私たち地域包括ケア推進課では、地域での取り組みを実際に見せていただくため、管内各県から、様々な取り組みをされている地域をご紹介いただき、現地に伺ってお話を聞いたり、活動に参加させていただいています。

平成 29 年 2 月 27 日、萩市役所を訪問し、同市社会福祉協議会及び同市むつみ地域で住民主体の生活支援を行っている「むつみ元気支援隊」の方と意見交換を行いました。意見交換後、「むつみ元気支援隊」の事務所見学もしましたので、今号では、「むつみ元気支援隊」の皆さまの活動を紹介します。

○むつみ元気支援隊発足の経緯

萩市むつみ地域（旧むつみ村 平成 17 年 3 月に萩市に合併）は、市街地から東へ車で約 30 分の人口 1,600 人弱で高齢化率が 50%を越える中山間地域です。人口減や高齢化が進む中、高齢者の日常生活の困りごとの解消、見守りの支援体制づくりのため、住民ボランティアによる「むつみ元気支援隊」を結成されました。

最初の活動は、25 年 7 月の集中豪雨災害時の流入土砂の搬出作業だったそうです。

○活動の内容

むつみ元気支援隊は、萩市むつみ地域世代間交流拠点施設に拠点を置き、構成員は 48 名です（平成 29 年 1 月現在）。

年会費は 500 円で、サービス利用者、提供者ともに入会して年会費を支払います。

また、サービスを利用したい方は、年会費とは別に買い物代行、ゴミ捨て、雪かきなどのサービス内容に応じた 100～500 円の料金を支払い、サービスの提供を受けますが、これは実際にそのサービスを提供した方ではなく、むつみ元気支援隊に入る仕組みになっています。

有償であることによって、利用者も遠慮なく依頼できるという声もあり、有償に踏み切れ事業を展開されています。

むつみ元気支援隊では、会員を対象にした月曜サロン（週 1 回開催）、男性サロン（月 1 回開催）のほか、地域全体を対象にしたひな祭り、七夕などのイベント等の地域の交流活動や「むつみ愛サービス」による買い物代行、ゴミ捨て、雪かきなどの訪問による生活支援サービスを行ってられます。

様々な依頼の中には、むつみ元気支援隊では対応できないこともあるようです。そういう時には、右の写真①の方針により隊の判断としてお断りをした上で、対応してくれる団体等を紹介しているとのことでした。

なお、「むつみ愛サービス」の取り組みは、「第 3 回健康寿命をのばそう！アワード《介護予防・高齢者生活支援分野》」の厚生労働大臣最優秀賞を受賞しています（次頁の写真②は楯とメダル）。

次頁の写真③は、ひな祭りのイベントで作られたおひな様です。とてもかわいらしいですね。



写真① 事務所内の貼り紙



写真② 楯とメダル



写真③ イベントで作られたひな人形

○萩市役所の取り組み

萩市では、このような取り組みを後押しするため、住民主体の生活支援サービス実施団体への市公用車の貸し出しを行っておられ、ガソリン代や保険料等も市で負担しています。

この取り組みは、移動手段を求める住民のニーズを踏まえて始められたとのことですが、全国でもあまり例のない取り組みだと思います。

○終わりに

萩市では、今回ご紹介した「むつみ元気支援隊」以外にも住民主体による生活支援事業を社会福祉協議会や住民の方々と連携し、推進しておられます。

今回の意見交換では、市役所、社会福祉協議会、そして地域の皆さまの「地域づくり」への熱意を肌で感じることができました。

なかでも印象に残っているむつみ元気支援隊隊長の小野さんの言葉を紹介します。

「2040年には、むつみ地域の人口は現在の半分になってしまうと見込まれている。そうなれば、地域の機能を果たせなくなってしまう、地域の中で地域の問題を解決できなくなってしまう。そうならないためにも、我々のようなボランティア団体が活動を続けていかなければならない。」

この小野さんの言葉には、地域と地域に住む方々への愛情があふれていると思いました。私たち中国四国厚生局は、少しでもこのような地域の方々の熱意ある取り組みの力になれるよう、関係機関の皆さまのご助力をいただき、縁の下の力持ちとして頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



写真④ 活動支援車両お披露目式の様子
(萩市提供資料)



写真⑤ 筆者とむつみ元気支援隊、萩市社会福祉協議会の皆さま